

13年ぶり 400mR 関東大会進出

昨今の高校400mR の記録向上は目を疑うレベルです。

県大会で40秒台は珍しくありませんし、41秒7程でも県の6位入賞(関東出場)に届かないこともあります。もちろん、降雨、風の強さ、気温が大きく影響するのは言うまでもありませんが、この10年の100mの練習技術の普及、そして400mR 独特のテクニックで記録を狙うという意識の高まりが合いまって記録は一気に上昇しました。

インターハイ決勝は40秒中盤あたりまで、41秒かかっては決勝に残れないケースもあります。中学生も個々の学校で42秒台をマークしてきています。

そんな中、春日部高校陸上部の400mRにかけるチーム戦「西村、会田、原口、石川、徳本」の熱い1年間を追った話です。

★400mR で県大会入賞を！

2018年の新人戦で、2006年の後藤乃毅選手時代に次ぐ、春高短距離時代の復活を告げる時代が到来しました。

短距離の育成に燃える高野先生にとって学総は、滝選手を200m準決勝に送り出しましたが、個人の短距離およびリレーで関東へ……という思いには、まだ届いていませんでした。

しかし、東部新人において、原口、石川の2トップが育成され、加えて徳本、西村らによって400mR のビジョンができあがりました。

新人戦の時点で100m10秒台2名、4人の平均11秒0～2で400mR42秒3くらい……が目標でした。狙い通りに原口が100m200m2冠、石川もそれに続き1. 2位独占。42秒台の400mR は東部地区優勝。

この短距離3冠は、スケールは異なりますが後藤乃毅選手時代を思わせる様相でした。

県新人大会～関東新人で入賞を果たし、目標は一気に「41秒前半で沖縄インターハイへ」と変わっていきました。

冬季練習も徹底した「400mR でインターハイへ！」の意識高く、追い込んでいきました。

★「2019沖縄へ！」

10秒台選手が春高に存在することは稀です。昨今、練習の正確さも大切ですが、100mと跳躍

は持って生まれたセンスが占める割合が高いことは否定できません。脚の速い中学生をスカウトできない春高にとっては厳しい現実。

そんな中で、短距離とリレーの指導法に意欲的な高野先生と選手たちは、コツコツとした苦しい練習を繰り返し、10秒台が2人もそろそろチャンスに恵まれたのです。

春の東部で原口はエースらしく100m優勝。石川(2年)も2位で新人と同じく上位独占。しかしここで原口は脚を痛め、200mは原口が優勝。400mRは安全策でも優勝できました。

高野先生とチームは大きく悩みます。

今はとにかく原口の回復を・・・そして5番目の会田の奮起です。

エース原口は2走なので非常に難しい。かといって詰まったバトンで県の決勝を乗り切れるはずもない・・・

3レースは無理だから原口を抜いて予選を抜けなければ・・・

すでに会田を用いた東部大会では42秒74で走っている実績があります。

県までの間、400mRチームはコンディショニングを最優先に頑張りました。

#### ★13年ぶりの関東出場へ

迎えた学校総合大会。

400mR 予選。

起用した会田が好走！

42秒31の好発進でした。

これで準決勝からは原口で勝負。

#### ★歴代3位

準決勝は、春陸歴代3位となる 41"66 西村・原口・石川・徳本 ！！

歴代1、2位の記録は後藤乃毅選手、奥岡真也選手など個人でもインターハイで大活躍した時代です。今回のように10秒8～9が2人のチームとしては破格の記録。明らかに400mRのための相当な努力があってこそそのタイムであるといえます。

むかえた決勝。

私と流(高49回)は緊張してスタンドから見守りました。

ここでちょっとしたハプニングが起きました。

機械が作動なくなり10分ほどの遅延がありました。さらにその間、日差しは遮られ、風も強まってきました。あきらかに嫌な間でした……。

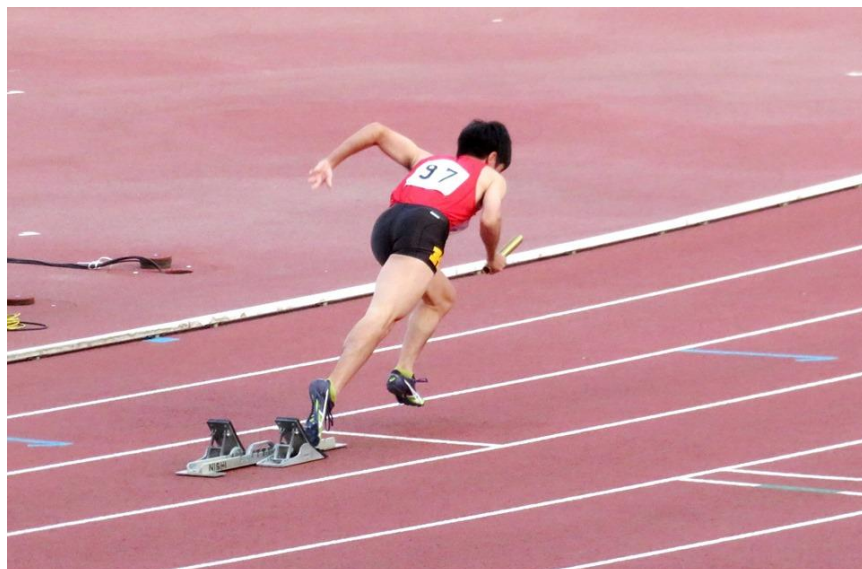
号砲一発決勝がスタート。

西村素晴らしいダッシュ

3位くらいで2走者原口へ

復活した原口だったが、最後20m

で明らかに異変が……



「切れたか!？」……頭が  
真っ白になりました。

バトンパスでほとんど止まってしまった状態から、石川が猛ダッシュ

そして今回最も好調だったといわれる徳本へ

埼玉の決勝のアンカー勝負で堂々の走りで、あっという間に先行する埼玉栄を捕らえました。



高野先生がアンカーに用いた理由がよくわかる好走でした。

見ていた私たちは、第三コーナーで血の気が引き、最後の20mで汗だくで声を張り上げていました。あまりの慌てっぷりに、写真を撮りもらしたのでした。

奥岡、後藤乃毅のリレーのインターハイ400mR すべてをカメラに収めてきましたが、なんと今回はとり損じてしまいました。



400mR 見事に入賞し、関東大会への出場を決めました。高校総体学総でのこの種目入賞は13年ぶりです。

当初、決勝は41秒1で優勝、～41秒8が入賞ラインと踏んでいました。

しかし決勝結果からもわかるように、予想よりもすべてのチームが0.7秒ほど悪いタイムであったのは、急激に下がった気温と、3mの舞う風が、選手たちの体温を想定以上に奪い、決勝の緊張と相互しておこった結果です。

もっとも緊張する試合が「学総の決勝」であり、新人戦とは全くの別モノ・・・であることを今年も身にしてみても感じました。故障者もいて薄氷を踏む思いの決勝でしたが、選手たちの助け合うチーム力と、高野先生のコンディショニング指導の成果であると強く感じました。

#### ★関東大会

結果から申し上げれば、関東大会では予選で惜しくも通過できませんでした。

全員の脚のピークを上げることは無理だったようです。

勝ちに行った結果、脚の故障なのですから、これは誰のせいでもなく運命です。

引退式で、エース原口が涙のあいさつであったようです。

私は、歴史に残る大活躍であったと思います。そもそもの原口の東部地区新人100m200m、4

00mR 三冠があつてのリレーの盛り上がりです。追い込んでスピードが上がった結果の故障です。みな意識が変わり、全国で入賞する大スター不在でも、今回の13年ぶりの関東大会出場につながりました。

それでも「あ、やれるんだ・・・」と後輩たちは確実に心に響いたと思います。

それが今回の、石川の100m200m制覇として表れていると入れます。

春高は昨年の東部新人から、学窓東部、国体予選東部、東部新人と100m4連勝しています。

新人は2年連続短距離2冠です。

高野先生の短距離チームの意識改革は確実に根付いてきていると感じました。

37回卒 野本順一

